

九条の会 金大ネット 通 信

事務局 金沢大学経済学部 小林研究室(264-5415) <http://www.ku-union.org/users/nine/>

講演とビデオ上映の会

講師：重田重守氏

演題：8月27日 - 白山郷開拓団集団自決の聴き取り調査を通じて -

ビデオ：大地の記憶(40分)

日時：2月5日(火) 16:00~18:00

場所：文法経講義棟 L313

金大ネットの新しい事務局体制が出来ました

昨年の6月に『通信』の第8号を、そして7月に号外を出して以来、長い間『通信』をお休みしていたことをお詫び致します。昨年10月より、代表も大滝先生(文学部)から堀林先生(経済学部)に代わり、新しい代表の下、金大祭では、平和憲法が生まれるまでの経過や憲法九条が決して日本の特殊な事情で生まれたものではないことなどを、幾つかの興味あるDVDをもとにして宣伝するなどの活動をしてきました。

ただ残念なことに、事務局メンバーもそれぞれに忙しく、新しい体制についての情宣活動が遅れ、会員の皆様にはご迷惑をおかけしました。お詫び致します。今回、新旧の代表から、それぞれに挨拶文を頂きました。次ページ以降に載せたありますので、是非お読みください。

今年は色々な面で、日本も世界も、変化が多い年かと思えます。私達金大ネットも、それらの変化の中に、戦争を否定し平和を実現する道筋を求め続けねばならないと思っています。会員の皆様のご協力を、心からお願いいたします。

今年最初の試みとして、終戦直後の旧満州(現中国東北部)に取り残された白山郷出身の開拓民の悲惨な集団自決の聞き込み調査を行ない本を著された重田重守氏をお招きし、上のような要領でお話しを聞くという企画を用意しました。多数の方々の参加をお待ちしています。

2008年 年頭にあたって

－ 金大ネットの新しい代表として －

堀林 巧

2008年初めの世界は金融危機の不安に覆われています。どうやら今年の世界と日本は多難の年になりそうです。経済不安は政治とも大きく関連していると思います。

ビル・クリントン氏が1992年の大統領選挙で勝利した要因のひとつは、湾岸戦争で「勝利した」ジョージ・ブッシュ（父）大統領のもとで米国経済が不調であり、そこを突いてクリントン氏が「経済が大切だ」と呼びかけたことにあると言われています。他方で、バブル崩壊後とはいえ、1993年の日本の一人あたりGDPはOECD加盟国のなかでルクセンブルクに次いで第2位でした。

その後、米国経済は2000年代初めまで順調、日本は不調で推移しました。現在はどうか。米国はアフガン・イラク戦争で「勝てない」だけでなく、住宅バブル崩壊(サブプライムローン問題)で深刻な景気減速(おそらく景気後退に行き着く)局面にあり、国際的威信を著しく低下させています。イラクからの軍(航空自衛隊)撤退計画を未だに明らかにしていない数少ない先進国が日本ですが、その日本の「先進国」のなかでの経済的地位は急速に低下しています。2000年代初頭以後この国は戦後最長の景気拡大を経験していると言われてはいますが、それを実感しているのはトヨタなど「グローバル企業」だけであり、日本の一人あたりGDPはOECD加盟国(30カ国)のなかで18位です(2006年)。

米国、日本とも「衰退」傾向にあるといえるのですが、私が危惧しているのはそのような衰退のなかで、日本の政治家やメディアが「ナショナリズム」(排外主義)を扇動すること、そしてその鋒先を発展著しい中国などアジア諸国に向けることです。福田政権以前の2つの政権時代にそのような傾向が顕著でした。私は、「教育基本法」に続いて「憲法9条」も変えられてしまうのではないかと本当に危惧していました。それを「容認」してしまう「空気」があるようにも感じていました。日々の生活に追われ、競争で分断され、大人も子どもにも「考える余裕」が与えられていないように感じていたのです。また、宮沢喜一元首相や小田実氏など、保革を問わず、戦争体験に基づいて憲法の大切さを説く人々が亡くなられたことで、「言論の力」も弱まっているとの危惧を抱いていました。

しかし、幸いな(?)ことに「競争」が「格差」・「貧困」・「生き難さ」を生み出していることや、(年金、防衛スキャンダルなど)日本政府のガバナンス能力の低さが如実になるにつれて、国民のなかに「この状況は危ない」という気持ちが生まれてきたようです。昨年(2007年)の参議院選挙結果はそのような国民の気持ちを反映するものでした。

しかし、生活不安が排外主義に結びつく傾向はなくなっていないように思います。いつでも

戦争の背景には生活不安があるように思います。また、残念ながらアジア地域は、欧州と違って、前の戦争から学び「戦争を起こさない」政治経済の仕組みをまだ創り出していません。

そうした状況のもとで「憲法 9 条」は、戦争のないアジアの政治経済の仕組みを「創る」出発点となるような私たちの貴重な財産です。また、第 25 条（「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」）を初め、憲法には貧困や格差をなくす規定が含まれています。憲法を「護る」とは、それを「活かす」ことと同じだと思います。

代表になったとはいえ、それにふさわしい役割を果たせる器ではないことはわかっています。それでも、私より経験豊かな先輩や、活動力のある若い世代のお手伝いはできると考えています。どうかよろしくお願いします。

金大ネット：九条の会 代表 1 年半の思い出

大滝幸子（文学部文学科）

たった 2 回しか打ち合わせ会に参加したことのない私が、山辺先生の「繋ぎでいいから、半年でもいいから」との懇請（でしたよね）にまけて、「じゃ、繋ぎましょう」とお引受けしのは、2006 年の年度はじめのことでした。知識に欠け、平和運動の人脈に欠け、まともな運動方針などたてられようもない私でしたが、たった一つの信念、「この団体は存続させなければならない」という思いにだけ縋りまして、要は「集まる方が楽しくなにかが（ごめんなさい、あまりに素人で）できる状態」を維持することだけを心掛けました。

偉大なる初代西田先生の知名度と学内での望望をわが身と見比べることなどこれっぽっちも念頭になく、ともかく「戦争で息子に人殺しをさせたくない」「息子を鉄砲の標的に差し出すなんて言語道断！」が戦争反対の情熱の根幹、そして「目的が手段（戦争）を正当化する」などという妄想は宗教戦争時となんら変わりのない人類の文化的退歩、退廃そして崩壊なのだ、ということしか、私の頭の中にはありませんでした。

1 年半、私個人は久しぶりのクラブ活動ののりで、とっても楽しく重鎮のメンバーの方たちをあごで使わんばかりの勝手をやらせていただき（汗）ポスターを書くのが大好きのわりには必ず 1 か所訂正の必要なものを作っておりました。あのう、ですから、みな様も、九条の会の打ち合わせ会へどうぞ、お気軽に顔をお出してください。西田先生の愛弟子、小林先生から ML がまわります。これからは、しっかり、ゆっくり、内容のある平和運動についての話し合いを誘導していかれる実力者、堀林先生が中心に座っていて下さいます。どうぞ安心して、日頃不可解に思うこと、憤慨しかかっていることを、話題としておもちよりください。若い諸先生方、どうぞ九条の会の打ち合わせ会へご参加くださいますよう、心よりお願いもうしあげます。戦争反対運動の火を金沢大学の中に保ってまいりましょう。

九条の会・石川ネットの《 5・3 集会 》(案)についてのご案内

九条の会・石川ネットでは、今年も 5 月 3 日の憲法記念日に、以下のような要領で集会を計画しています。まだ最終的な決定ではないとのことですが、ほぼこの線で全体的には決まっていきたいと思います。なかなか刺激的なメニューが用意されているようですので、会員の皆様も、ご家族や友人知人の方々をもお誘いあわせの上、こぞってご参加くださいますよう、お願いいたします。

集会名

輝け九条！許すな改憲！5・3 石川県県民集会

日 時：5 月 3 日（土 / 祝） 12 時 30 分開場 13 時 30 分開会
16 時終了

会 場：厚生年金会館・大ホール（1800 人収容）

主 催：九条の会・石川ネット

賛 同：県下の「九条の会」

参加費：1000 円（前売り・当日とも。学生は 500 円）

講演	井上ひさし氏（60 分）
スピーチ	千葉 龍 氏（20 分）
政治風刺コント	松崎 菊也氏（40 分）

以上のような要領で、集会が用意されようとしています。私達金大ネットとしても、出来るだけ力を合わせて、この集会に参加していこうと考えています。ご協力をお願いします。

【編集後記】長い間『通信』を休みましたこと、深くお詫び致します。私が編集の仕事を始めから随分時間がたちました。何時までも年寄りがでしゃばるのは良くありません。新しい編集委員の方も決まりました。後任は、経済学部の若いスタッフ、小林先生と杉橋先生です。次号からは彼等の若々しい編集をお楽しみください。今まで好き勝手な文章を書き、会員を初め多くの方々にご迷惑をおかけしてしまったこと、お許しください。有り難うございました。（山辺知紀）